

鹿児島の植物 76

山に紅葉を見に行こう

植物担当 久保 紘史郎

季節が移り行き、涼しくなってくると山に登るのも快適になってきます。そんな中、紅葉を見ながらのトレッキングは、心も体もリフレッシュするのに最適です。紅葉の仕組みと、おすすめのコースを紹介します。

【どうして紅葉するの？】

鹿児島の人里近くに生えてる樹木は、紅葉しないものが多く、冬場でも青々としたスダジイやアラカシ、タブノキといった常緑広葉樹が繁っています。鹿児島県の平野部は冬でも比較的気温が高く、樹木は効率よく光合成をすることができます。そのため、落葉の必要がなく、紅葉しないものがほとんどです。ところが、霧島山や紫尾山、高隈山など標高1000mを越えるような山では、平野部より平均気温が5-6℃以上も低くなります。冬の寒さが厳しいので、樹木は効率よく光合成をすることができません。また、葉を付けたままだと、雪の重さで枝が折れてしまいます。そこで、秋が深まると、自ら紅葉して葉を落とし、冬に備えるのです。

【黄色く染まる仕組み】

葉の中には、光合成をするための緑色や黄色の色素が含まれています。普段は黄色の色素より、緑色の色素が多いため、葉は緑色に見えています。しかし、冬が近づき気温が下がると、緑色の色素が分解されていきます。そうすると、緑色に隠れていた黄色が目立つようになり、葉は黄色く染まるのです。



黄色く染まったミズナラ

【赤く染まる仕組み】

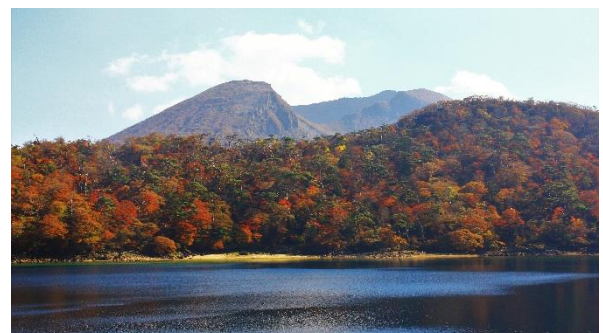
緑色の色素が分解されるのは黄色に染まる仕組みと同じです。緑の色素が分解を始めると、落葉するために葉の根元に壁が作られ、葉で作られた栄養分(糖)が、茎に移動できなくなります。行き場を失った栄養分(糖)が、葉の中で赤い色素に変化し、赤く見えるようになると考えられています。



赤く染まったコハウチワカエデ

【紅葉トレッキングおすすめコース】

紅葉を見ながら初心者でも楽しめるコースとして、霧島山の六観音御池をおすすめします。火口の内側は、台風の時でも強風の影響が少ないため、葉が傷まずに残り、例年11月上旬ごろ美しく紅葉します。展望所からの紅葉は光の関係で、午後からがベストです。えびの高原から高低差も少なく、初心者でも運動靴で見に行くことができます。体力に余裕があれば、白鳥山を経由すれば、山頂から眺望があり、さらに楽しめるでしょう。



六観音御池の紅葉（後方に韓国岳）